

二学年 学年だより

No. 5 【10月号】

令和2年10月1日発行

食事をとる前に、手を合わせて「いただきます」、美味しく食事をいただいた後は「ごちそうさまでした」。誰もが小さい頃に親から教わり、保育園や幼稚園、小学校で皆とともに大切にしてきた行為だ。年を重ねるにつれ、そのことをついおろそかにしてしまうようになってしまいが、ある程度の年齢が来るとまたきちんと「いただきます」「ごちそうさま。」と言うようになる。

今のみんなは、ちょうどそういったことをおろそかにしてしまうようになる年代ではないだろうか。なぜそう思うのか。それは我が家の子どもたちを見ているからだ。昔は可愛らしく「いただきます」と言っていたのになあ、と思うのだ。2年生の中には、もちろん今でも食事前後にきちんと手を合わせている人もいるだろうが、今一度このことを大切に感じ、みんなに「いただきます」「ごちそうさま」と言いましょと伝えたい。

なぜ、それを今言うのか。美味しいものが店に並ぶ季節、「食欲の秋」であるからは理由の1つかもしれないが、ここではなぜ「いただきます」なのか、2つ挙げておきたい。

「当たり前でなくなった当たり前」

この春の学校休校で、私たちは今までの「当たり前」を失うことがあることを知った。今でも世の中には思うように生活できない人がいることを感じているのであれば、食事一つが尊いことに気付くはずだ。家に帰れば、食事を作り、風呂を沸かし、あなたたちの帰りを待っていてくれる大切な家族がいる。学校に通い、勉強もできるし、部活もできる。なんと幸せな毎日か。月日が経ち、春に感じつつあった「当たり前」へのありがたみ、もう一度考えてみないか。

「食事は大切な家族との会話の場」

勉強や部活に明け暮れ、家にいる時間も短い。その家にいる時間のうち、親と話す時間はどのくらいだろう。手元の小さい画面に費やす時間がかなり増えた分、最近の高校生は親と話をする時間が減っていると聞く。高校生も折り返し地点を過ぎ、1年後には全員が進路の実現に向けて邁進しているはずだ。みんなは、特に今は、きちんと進路について親と話をする義務がある。みんなの「いただきます。」はきっと「食事をしながら話をしようよ。」という言葉に変わり、親の心に伝わるに違いない。



残念ながら、今年は愛媛の郷土料理である「いもたき」を河原で楽しめる場所は少ない。それでも、秋刀魚、栗、薩摩芋、葡萄、梨、柿…。秋は魅力ある食

べ物が多い。豊かな自然の恵みを前に、きちんと手を合わせて「いただきます」「ごちそうさま」と言えば、それだけでなぜか明るい毎日になっていくんじゃないかな、な

どと思うのだが、みんなはどうだろうか。

(204HR 担任)



家で過ごす時間が長くなり、よく海外ドラマを観るようになった。今は、日本でもドラマ化され『SUITS/スーツ』を見ているところだ。その中で、負け知らずの弁護士役を務める主演俳優のガブリエル・マクトが言っていたセリフを紹介する。

”Winners don't make excuses when the other side plays the game.” (勝者は言い訳などしない。)

劇中で弁護士は、不利な状況でもできない理由を考えず、様々な可能性を模索し、行動し続ける。そして最後には劣勢を覆す。成功するためにはこの姿勢がとても大切だと思った。

皆さんはどうだろうか？上手い出来ない時に、できない言い訳を考えてしまっていないだろうか？言い訳をして思考を止めると、次の成長は見込めない。より大きく、強くなるために自分の可能性を信

じて様々な行動ができる人になってほしい。

(204HR 副担任)